

すいた環境サポーター養成講座 第5回目

日時：10/26(土)10:30～16:00

場所：吹田市資源リサイクルセンター他

◆吹田市資源リサイクルセンター見学

講師：吹田市破碎選別工場 平野 氏

吹田市資源リサイクルセンター 山口 氏

吹田市資源循環エネルギーセンター 高橋 氏

ごみの減量・資源リサイクル活動を中心とした循環型社会の構築に向けて市民・事業者・行政が協力する啓発拠点施設である「吹田市資源リサイクルセンター」、及び熱エネルギーで循環型社会の輪を広げる「吹田市資源循環エネルギーセンター」の見学を行いました。

「吹田市資源リサイクルセンター」は分別収集されたごみ・資源を破碎・選別し再資源化する「破碎選別工場」とリサイクルの活動・研究を行う「資源リサイクルセンター（通称くるくるプラザ）」の二つの機能をあわせもつ施設です。破碎選別工場では大型複雑ごみ、小型複雑ごみ、有害危険ごみなど資源ごみを受け入れ資源化しています。ごみは機械だけでなく、手選別を含めて丹念に選別されています。受講者からは、こんなに人手がかかり大変とは思わなかったと、驚きの声が上がっていました。

資源リサイクルセンターでは市民研究員が活動する市民工房を見学しました。市民工房には衣類・紙すき・ガラス工芸・自転車・陶芸・家具や木工などの工房があります。工夫されて作られた製品や、思ってもいなかった素材から作られた作品に、関心、感嘆の声が聞かれました。

昼休憩時には色々な製品・作品をじっくり見るために、多くの受講者が再度これらの工房へ足を運んでいました。





資源循環エネルギーセンターでは、どのようにごみが焼却されているのかを学びました。見学コースから見下ろせるゴミピットやクレーンの大きさは圧巻です。

焼却で出た熱はエネルギーとして回収され、灰となったごみはスラグ化の上、建設資材として再利用されます。また排ガスに含まれる有害物質は非常に厳しい基準で、

除去されています。受講者からは、どのような方法で有毒ガスが除去されているのか？埋め立てのごみはないのか？出火などのアクシデントはないのか？より詳しく知ろうとして、たくさんの質問が出ていました。

◆吹田市の環境の現状と環境政策

講師：吹田市環境部環境政策室 八木 氏

地球温暖化のメカニズムや国際的な地球温暖化対策の動向等についての説明があった後、吹田市としてどのような対策を行っているのかを学びました。

吹田市では環境を守り、良くするため、エネルギー・資源循環・生活環境・みどり・都市環境について市の基本理念や目標を環境基本計画として定めています。

これに基づき、吹田市では資源ごみの再生資源化や、燃焼ごみの燃焼時における発電、環境影響評価の実施、環境まちづくりガイドラインの作成、市役所内でのエコアクション等に取り組んでいます。

そして私たち一人ひとりが環境の「担い手」であり「伝え手」であることを認識することが大切、とのことでした。



◆3 R 吹田市の現状と課題

講師：吹田市環境部環境政策室 環境政策室 北 氏

吹田市のごみの減量・資源化についての説明がありました。

吹田市ではごみを12種類に分別し、回収の上、資源化できるものについては再生をしています。資源化できないごみについては、大阪湾フェニックスセンターで最終処分かけられますが、これには限りがあり、無限に処分できる訳ではありません。またマイクロプラスチックによる海洋汚染は世界的にも問題となっており、これはスクラブ入りの洗顔料・化粧品やプラスチックストロー・レジ袋等が原因になっていると云われています。



ごみを減らすために3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組は必須です。具体的には、プラスチックストローの使用の取りやめ、レジ袋の削減、シェアバックの無料貸し出しなどの取組があります。そして、食品ロスの問題も深刻です。様々な分野で意識を高めていくことが大事であると学びました。

◆ふりかえり

第5回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。

